

## B 型肝炎 C 型肝炎陽性未受診者の自治体訪問調査と院内未受検者についての検討

研究分担者：上野 義之 山形大学医学部内科学第二講座  
研究協力者：奥本 和夫 山形大学医学部内科学第二講座  
研究協力者：芳賀 弘明 山形大学医学部内科学第二講座  
研究協力者：佐藤 苑子 山形大学医学部内科学第二講座  
研究協力者：後藤 慎弥 山形県健康福祉部健康福祉企画課薬務・感染症対策室

**研究要旨：**B 型肝炎、C 型肝炎陽性者は各自治体や病院内で判定することが可能であるが、その後の追跡については明らかでない。今回、各市町村で肝炎陽性者をどのように追跡しているかを、訪問によって検討した。また、山形大学医学部附属病院初診者の肝炎陽性患者を個別に拾い上げ、受診勧奨につき検討した。（方法）1）各市町村保健担当者を山形県健康福祉部担当者と肝臓専門医の 2 名で訪問し、肝炎陽性患者の追跡、肝炎コーディネーターへの参加をお願いした。2）山形大学附属病院での肝炎陽性者の拾い上げを行い、その性質につき検討し、受診勧奨を行った。

### A. 研究目的

近年、B 型肝炎、C 型肝炎はコントロールが可能となり、特に C 型肝炎の多くは治癒するようになった。しかし、依然として、B 型肝炎、C 型肝炎の感染を知らないもの、知っていても放置されているものも存在する。今回、B 型肝炎、C 型肝炎陽性者が発生している自治体につき、その後の追跡を行っているかを訪問により調査した。また、山形大学医学部附属病院における外来初診者のなかで他科受診時の肝炎陽性者につき、その性質と介入につき検討した。

### B. 研究方法

- 1) 山形県内の市町村で、肝炎陽性者の報告が上がった市町村 9 つをあげ、山形県健康福祉企画課職員と肝臓専門医で以下の日程で訪問を行った。  
6 月 26 日：村山市、尾花沢市、酒川村  
7 月 2 日：山辺町、大江町、朝日町  
7 月 3 日：長井市、南陽市、高畠町、米沢市  
7 月 4 日：新庄市、金山町、真室川町  
7 月 18 日：鶴岡市、庄内町、酒田市

- 2) 山形大学医学部附属病院の他科初診患者のうち、HBs 抗原陽性者、HCV 抗体陽性者で、当科にかかりつけでない患者を拾い上げ、受診勧告対象患者に対して肝臓専門医から電子カルテを介して介入することとした。

### C. 研究結果

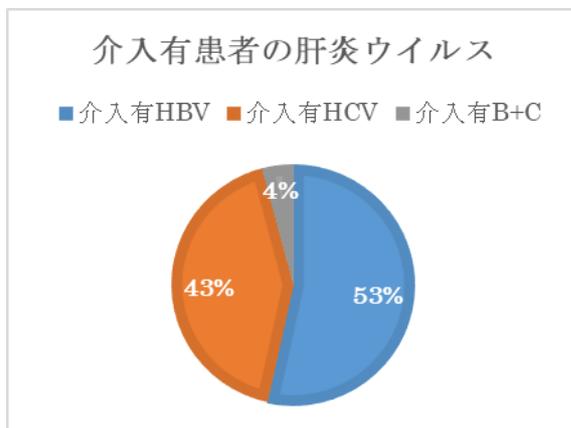
#### 検討 1：各市町村担当者の訪問

各市町村で肝炎陽性患者は 1-3 名であり、その対応は市町村により様々であった。各個人へハガキを郵送で勧告するところもあれば、電話で勧奨するところもあった。また、行っていないところもあり、そのような担当者にはいずれかの方法で勧告してもらおうよう要請した。また、その後の追跡調査については行っているところはなく、可能な限り追跡していただくよう要請した。山形県、大学含めて強制力はなく、市町村の担当者の熱意によってその対応に差が出ていた。

検討 2：2016 年 5 月から 2019 年 2 月までの当院初診患者における HBsAg、HCV 抗体陽

性者は 618 名（男性 353 名、女性 265 名）であった。そのうちに、当科外来通院中、かかりつけ医に加療中、インターフェロン、DAA 治療後の患者、末期がん患者等をのぞき、介入をおこなったのは 73 名（11.8%）であった。介入者のうち、53% が HBsAg 陽性（平均年齢 68.0 ± 11.3 歳）、43% が HCV 抗体陽性（平均年齢 71.7 ± 11.2 歳）、4% が HBsAg、HCV 抗体陽性（平均年齢 76.2 ± 10.8 歳）であった（図 1）。

（図 1）



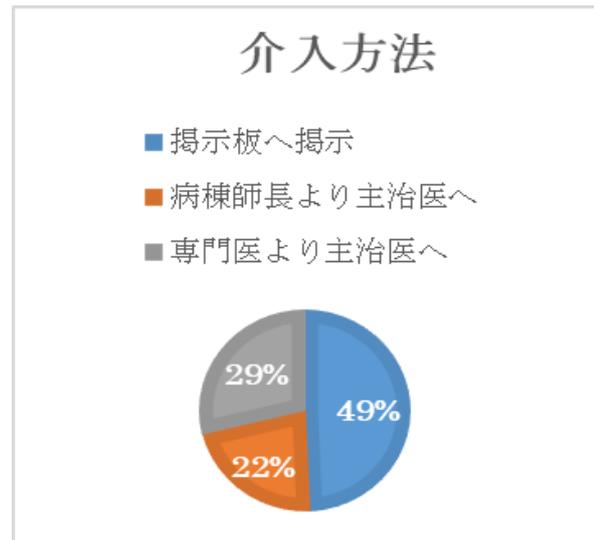
各診療科でいくと表 1 のように循環器内科、眼科、消化器外科の順であった。

（表 1）各診療科の肝炎陽性者数

循環器呼吸器腎臓内科	136
眼科	85
消化器外科	76
整形外科	56
泌尿器科	53
循環器呼吸器外科	47
耳鼻科	38
神経内分泌血液内科	31
産婦人科	27
皮膚科	20
脳外科	18
歯科	8
精神科	7
放射線科	6
消化器内科	4
腫瘍内科	3
小児科	3

介入方法としては、1) 電子カルテの掲示板へ掲示（49%）、病棟師長より主治医へ直接勧告（22%）、専門医より主治医へ直接勧告（29%）であった。

（図 2）



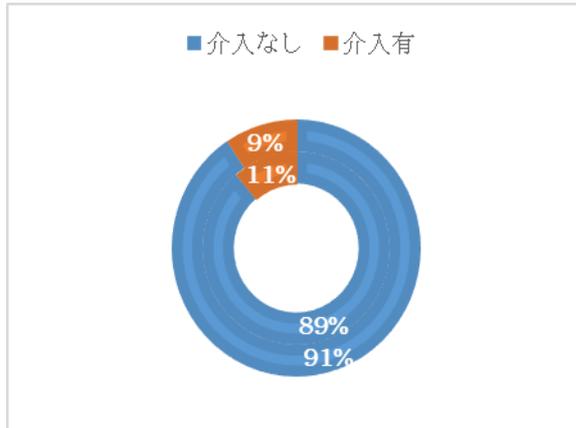
介入した診療科ごとにみると、眼科が最も多く、循環器呼吸器腎臓内科が続いていた。

（表 2）各診療科ごとの介入数

眼科	17
循環器呼吸器腎臓内科	12
消化器外科	5
産婦人科	5
整形	5
神経内分泌血液内科	4
脳外科	4
皮膚科	4
循環器呼吸器外科	3
歯科	3
耳鼻科	3
放射線科	3
消化器内科	2
泌尿器科	2
精神科	1

年齢で区分すると、75 歳未満は 51 名（11%）へ介入、76 歳以上は 22 名（9%）へ介入しており、75 歳以上でも介入率に大きな差はなかった（図 3）。

(図3)内側が76歳以上、外側が75歳以下



#### D. 考察

肝炎陽性者に対する対応は市町村において様々であったが、各担当者の努力にて受診まで結びつくケースが多かった。しかし、1-2名はどの市町村でも受診まで結びついていないケースも存在し、その理由としては、個々ケースで様々な問題もあるようであった。担当者に肝炎の知識を持った者がいると有用であり、肝炎医療コーディネーターの資格をもってもらうよう、各市町村担当者へ働きかけたのは今後役立つであろう。

大学病院内にて、アラートシステムが導入されていない中で、拾い上げ作業も重要であると思われる。たとえアラートシステムが働いても、無視する医師もいる中で、直接師長や医師から、受診をお願いされることでそのほとんどは紹介されていた。しかし、眼科などにおいては2-3日で退院するものも多く、限界もあり、今後はアラートシステムを併用した対策が必要である。

#### E. 結論

各市町村を直接まわる啓発活動は有用である。また、アラートシステムのない中で、拾い上げ、直接連絡するシステムは拾い上げに有用に働いていた。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

##### 1. 発表論文

Okumoto K, Saito T, Nishina T, Mizuno K, Tomita K, Haga H, Ueno Y. Prognosis and causes of death in individuals with hepatitis C. **Journal of hepatology research**. 2018;2:1006-08.

##### 2. 学会発表

水野恵, 奥本和夫, 仁科武人, 富田恭子, 芳賀弘明, 齋藤貴史, 上野義之: 当科における肝硬変の成因別実態と合併症の特徴. **肝臓** 59suppl(1), A278. 2018

##### 3. その他

###### 啓発資料

なし

###### 啓発活動

\*上野義之: 平成30年度庄内地区肝がん撲滅市民公開講座「ウイルス性肝炎、脂肪肝、肝がんについて知ろう」平成30年7月28日 鶴岡市

主催 山形大学医学部附属病院

\*上野義之: 平成30年度 肝臓病教室「脂肪肝について学ぼう」平成30年10月25日

山形市 主催: 山形大学医学部附属病院

\*上野義之: 平成30年度山形県肝炎医療コーディネーター養成講習会

平成30年10月6日 山形市 主催: 山形県

\*上野義之: 平成30年度山形県肝炎医療コーディネーターむけ研修会

平成30年10月24日 山形市

主催: 山形大学医学部附属病院

\*上野義之: 平成30年度 肝臓病教室「肝硬変について」平成31年3月8日 山形市

主催: 山形大学医学部附属病院

## H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし